

第2回若葉区地域福祉計画推進協議会 会議録

日 時 平成19年9月29日(土) 午前10:00～午後12:15

場 所 若葉保健福祉センター3階 社協大会議室

委員定数：33名 出席委員数：24名 傍聴人：2名

事務局：9名

【1】次第

- 1 開会
- 2 若葉保健福祉センター所長挨拶
- 3 議題(1) 社会福祉協議会加曽利地区部会の活動状況の発表
 - ・情報交換(2) その他
 - ・地域福祉活動事例集の作成について
 - ・平成19年度パイロット事業について

【2】議事の概要

- (1) 社会福祉協議会加曽利地区部会の活動状況の発表
加曽利地区部会会長の武委員から地区部会活動等について報告があった。
 - ・情報交換
武委員からの報告を受け、4班に分かれグループ討議を行った。
- (2) その他
 - ・地域福祉活動事例集の作成について
事務局から報告があった。
 - ・平成19年度パイロット事業について
事務局からの報告及び委員からの意見、要望等があった。

【3】発言要旨

【「議題(1) 社会福祉協議会加曽利地区部会の活動状況の発表」における質疑応答】

- (委員長) 19年度も第2回ということになりましたが、できるだけ実効性のある地域福祉推進協議会ということで進めていきたいと思います。本日はグループ討議という形をとりましたが、折角参加していただいた委員の皆様それぞれにご発言をいただきたいということで、小グループという形を取らせていただきました。
- 本日は、加曽利地区部会の武委員の報告をひとつの話題提供といたしまして、それぞれの地域のなかで取り組まれている実情をご発言いただくなかで、この地域福祉推進計画をそれぞれの地域で進めていくためのヒント、ノウハウを共有できればと思います。
- グループ討議のことにつきましては、後ほど説明したいと思います。
- (武委員) 加曽利地区部会の会長をしております武と申します。今年の3月まで11年間はおじろ台自治会の会長をしておりました。それと並行して7年間社協加曽利地区部会の副会長をしておりました。
- 昨年度の推進協議会で社協と自治会の境界領域に関して議論があったということをお聞きしました。それに関連付けながらパイロット事業の推進というテーマのなかでご紹介させていただきたいと思います。これからの展開のなかでちょっとでもヒントになれば幸いです。

私たちの社協加曽利地区部会では、必ず傘下の自治会長が常任理事で入っているシステムになっており、自治会長を交えた会議が年6回ほどあり良い関係が築かれています。

皆さんの地域でも同じ状況だと思いますが、これまでとは社会全体の流れが変わりつつあります。

1点目は、核家族化と高齢化の進行の問題ですが、高齢化と言っても元気なお年寄りが多いということはありません。

2点目は、団塊の世代のリタイア人口が増えていること。その団塊の世代を「生きがい」を利用しながら我々の集団のなかにいかに入ってきてもらうか、これが一つのポイントになるかなと考えています。そういうことも踏まえて我々がスローガンにしているのが「介護に頼らない健康づくり」です。その一つは軽スポーツの普及と奨励ということで、「歩こう会」「ゲートボール大会」「グラウンドゴルフ競技会」を定期的に実施しています。

それと同時に心の不安を取り除くために、地域にある老人施設との連携を盛んにしようということで今進めています。

18年度パイロット事業ですが、健康づくりと同時に高齢化の進行に対応するために何かないかと考えたのが、近くにある老人施設との交流を盛んにしようと、近隣の「秀眉園」と「寿クラブ」に協力をお願いした「福祉ボランティア活動と福祉相談のネットワークづくり」でした。我々が月1回ボランティアとして施設に入り込むと同時に、逆に施設から我々の地域に出てきてもらい施設とはこういうものであるという話をする機会を増やすことにより、お互いの交流を図りコミュニケーションを高めて行こうというものです。その時のイベントで最も喜ばれたのは「花とみどり」で、これは非常に好評でした。

18年度は地域から施設に入り込むことはできましたが、19年度はそれを継続しながら今度は逆に施設から地域にでてきてもらい、福祉施設とはこういうものであるという話しをしてもらう機会を作ることが出来ないだろうか、と考えたのが19年度のパイロット事業「高齢者の健康づくりと地域福祉ネットワークの構築」です。第1回として「健康講和集会」を開催しましたが、台風の迫るなかにも関わらず、72名の出席がありました。

18年度及び19年度と2年にまたがるパイロット事業の進め方については内部でも議論をしていますが、一部の変更はあっても継続していきたいと考えています。そして、推進力として地区部会の中の「高齢者委員会」にパイロット推進チームを作りました。

また、地区部会のなかに福祉活動推進員という人達がありますが、非常に熱心な方達が多いのでパイロット事業の推進のなかで徹底的に生かしていきたい。その福祉活動推進員の活用についてはまだまだ検討の余地があり、若葉区内の地区部会の福祉活動推進員を競わせるような仕組みづくりも必要ではないかと考えています。パイロット事業推進チームと福祉活動推進員のタイアップのなかでさらにその推進を図っていきたい。

老人介護施設でのイベント事業ですが、ここで注意しないといけないのは、あまり難しく考えないで楽しくやること、楽しくないと尻切れトンボになってしまう。生きがいが生まれるようなきっかけ作りができればと思います。あと、施設が何を考えているかを把握することも重要だと思います。

「健康講和集会」のテーマはいくらでもあるが、社協と自治会が音頭を取りながら皆と良く議論していきたいと思います。

(委員長)

ありがとうございました。各グループでお話しをする前に、ご質問があればお伺いしたいと思います。各グループでお話しをする前に、ご質問があればお伺いしたいと思います。各グループでお話しをする前に、ご質問があればお伺いしたいと思います。

- (委 員) 19年度、7月15日に「講和集会」を開かれています、この後開催する予定はありますか。
- (武委員) 1年に3回の開催がパイロット事業のノルマになっており、今年の暮れに1回、来年の2月か3月にあと1回開催する予定となっています。
- (委 員) 今後も、1回目と同様に午前中に講和、午後にボランティア活動を行なうのですか。
- (武委員) 1回目は予算をオーバーしたため、昼食を取らずに午後から行なうことも考えています。
- (委 員) テーマは決まっているのですか。
- (武委員) これから皆さんの意見を聞くつもりです。
- (委員長) 地域福祉パイロット事業の推進－18年度・19年度の紹介－ということで資料がありますが、その説明もお願いできますか。
- (武委員) 加曽利地区の高齢化率、自治会の加入率等の数字が書いてありますが、加曽利地区においても高齢化率が非常に高くなっています。また、中段は社協と自治会が組み合う形で一緒にやっへ行こうという理想の形を組織化して示した図になっています。右の欄は先程お話した18年度、19年度のパイロット事業の経過について書かさせていただきました。
- (委 員) グラウンドゴルフ大会には多くの人数が集まったようですが、どのような方が活動の中心になっているのかお伺いしたい。
- (武委員) 活動によってさまざまですが、グラウンドゴルフ大会は45名ほどの役員がいました。私を含めて2名ですが、現自治会長や自治会長経験者がリードして新たな人材を発掘することに力点を置きながら活動していました。
- (委 員) 事業の後に手作りのおにぎりや味噌汁を出されているが、前もって準備をしているのですか。
- (武委員) おにぎりは自治会館の近所の方のボランティアでやっていただきました。お味噌汁については前日に買い物を済ませ、当日は講和集会が始まる前に準備し、講和後は参加者の方にも配膳などを手伝ってもらいました。費用としては材料費だけで、調理については自治会館の台所を使用させていただきました。
- (委 員) 費用については参加者の方も一部負担したのですか。
- (武委員) 今回の場合はパイロット事業ですので、10万円の補助が出ております。参加者の負担はありません。
- (委 員) 18年度のパイロット事業は参加者が10人とか15人で、19年度は70人を超す人が参加していますが、8つの自治会で広報しているのでしょうか、具体的にどのように広報しているのか教えていただきたい。
- (武委員) 常任理事として自治会長が入っていると説明しましたが、社協から自治会長宛てに文書を出し、自治会の回覧板を利用して広報しました。
- (委 員) 回覧だけだと見落とすこともあり、あまり集まらないような気もしますが直接社協の会員が誘うことはないのでしょうか。
- (武委員) 例えば、主要4自治会を中心に週1回から2回グラウンドゴルフを行っています、日頃の活動を通して口コミで参加を促していることもあります。
- (委 員) 地域の方の日頃の活動が人を集める力になっているということだと理解いたしました。
- (委 員) 18年度の4月と9月に「花とみどり」という事業をやっていますが非常に好評だということを聞いています。詳しい内容を教えていただきたい。
- (武委員) 施設と相談しながら決めたことですが、こちらが一方的に花を植えるのではなく、介護施設に来られる一人一人が植えるお手伝いをするによりコミュニケーションを図ろうとするものです。

(委員) 社協と自治会の関係は大事な課題となっています。自治会は何をやっているのか理解している人は結構いると思いますが、社協が何をやっているのか分からない人が多い。そこで、私どもの自治会の理事会で社協の活動を独自にプリントし個別配布をしました。それが現状です。

これまで、社協が何をやっているのか批判の対象としてきましたが、社協と自治会が一緒になって活動しているという武委員の報告を聞き大変すばらしいことだと感じました。

そこで2点ほどお尋ねしますが、1点目は若葉区の他の地区部会も加曽利地区部会のようにやっているのか。

2点目は、自治会と社協がお互いの理解不足を解消して一緒に活動するためには、お互いどのような努力をすれば良いのか。

(武委員) 個人的な意見も大分入りますが、自治会と社協の基本的な違いは、自治会は単位が小さ過ぎる、社協は単位が大きいということです。

小さな単位の自治会で福祉を行うのは限界があると個人的には考えています。単一自治会200世帯から350世帯でそれ以下の所もあります。単一自治会のなかでできる仕事と、8つの自治会にまたがる仕事を考えると、福祉の場合8自治会を含めた社協の大きさが必要になってくる。地域通貨、NPO、助け合いを考えると8自治会を含めた社協の大きさが絶対に必要であると考えています。

他の地区部会のことについては内部で議論はしていないが、自治会長を社協の常任理事として入れることは、又聞きの情報ではなく、ダイレクトに話が行き交うようにするためにも絶対に必要だと思う。

ほおじろ台自治会ではお茶のみサロンを行っていた。社協の事業でも同じようなものがあるのだから、自治会が町内まで呼び込めばいいし、社協の方からも一緒にやろうする仕組みづくりが必要だと思う。

我々の地区部会では設立当時からそのような体制を作ってきた。垣根をつくらず双方が入り込むようにするとよいのではないかと。

(委員) 双方が歩み寄るという明るいお話を伺いましたが、他の地区部会が加曽利のようにやっているかという点、必ずしもそうではないと思う。他の地区部会には是非加曽利地区部会の良いところを取り入れていただきたい。

(委員長) それでは、グループ討議に入りたいと思います。それぞれの地域ではどのようなになっているのか、自治会と社協が一緒に活動するポイントは何なのか、その辺を中心にお話しいただきたい。

ただ、地域福祉の推進力として自治会と社協は大きな力ですが、どうしたら福祉施設、NPO、老人会等さまざまな団体ともタイアップしていけるのか、についてもお話いただけたらと思います。

30分程討議していただいた後、討議の結果について、班ごとに3分ほど発表していただきますので、司会と発表者を決めていただきたいと思います。

～4班に分かれ約30分の間グループ討議～

(委員長) それでは、班ごとに発表をお願いいたします。

A グループ

(相田委員、有賀委員、池野委員、尾出委員、大嶋副委員長、大島委員)

単一自治会でも加曽利地区部会よりも人が多い地域もあったり、更科、白井、中野のように広い地域では、自治会中心の方がやり易いという意見もありました。また、郊外にある福祉施設ではボランティアも入りづらく、自治会と社協の連携は地域性があって非常に難しいという結論でした。

Bグループ

(奥井委員、奥田委員、金子委員、雲村委員、古賀委員、櫻田委員、鈴木委員)

一口に自治会といっても大小様々で、小さな自治会は大きな自治会に飲まれてしまうのではという意見もありました。各団体の活動状況を把握するため敬老会をどこが主催したか話し合ったところ、7人中自治会が2人、地区部会2人、両方が2人でした。やはり自治会が頑張っているなという感じで、地区部会にも頑張ってもらいたいという感想でした。

地区部会の正副会長は自治会長が多くいるのに、なぜ地区部会と自治会が連携しないのか理解できないという意見もありました。

Cグループ

(砂長谷委員、武委員、田沼副委員長、長久保委員、中村敬太郎委員、中村實委員)

自治会と社協との連携は難しいという認識で一致しました。連携不足については、自治会長にきちんとした情報がいない、自治会長がきちんと受け止めていないような気がします。一度関係者を集めて良い事例について話しをする場が必要だと思いました。この推進協議会のなかでそのような場を設定して、行政からこれに参加を呼びかけることができないか、という提案ができました。

Dグループ

(花島委員長、藤森委員、真野委員、藪委員、山田委員)

加曽利の事例はすばらしいが、地域によってはそのような体制を取れない所もあると思う。地区部会の会費も自治会が一括して社協に提供しているが会計が不明瞭であるという意見もでました。パイロット事業についても社協に補助金が出されており自治会の入り込む余地はない。しかし、現状はどうあれ地域福祉を考えれば、自治会の意見をどう吸収し、社協との連携を良くすることが必要であるというまとめでした。

(委員長)

何度も繰り返された議論ですが、社協と地区部会がうまくいっている所もあれば、地区部会がまだない地域もある。そして、社協は何をやっているのか見えてこないし分からないという人もいます。地区部会がある所でも会費は集めるが、活動内容が自分達の生活のなかに見えてこないという意見もあります。地区部会がない地域の人があるような話を聞くと、地区部会を作ろうにも作るまでいかないという話も聞きました。

自治会と老人会、ボランティア協議会との接点はあっても、地区部会との接点は取りづらいという話もありました。

先程、田沼委員から歩み寄りの機会を一度つくってみたらどうかという提案がありましたが、この3年間でも社協が何をやっているのか分からないという意見がでてきますので、自治会、社協が組織としてお互いの活動内容を理解し協力するなどの方向性が必要だろうと思う。地区フォーラムをやっている3～4年前からそのような意見がある訳ですから、地域振興課、社協なりがそれぞれの活動内容をきちっと伝えていくことが必要だと思う。また、自治会、社協以外にも地域福祉を推進していく大きな組織があるので、それらをどう繋げていくのか、今後の課題だと思う。

本日は、グループ討議をさせていただきましたが、今後も機会をとらえてそれ

ぞれの皆様にご協議をいただくような場をつくっていききたい。

今日議論された武委員のご報告も含めて持ち帰り、所属されている組織なり地域なりで、こういう議論があったという報告をしていただいて、地域の実情のなかで福祉の推進、協力関係の推進にご尽力いただけたらと思います。

【「議題（２）その他 ・地域福祉活動事例集の作成について」】

（事務局） ８月２３日に第１回編集会議を開催いたしました。若葉区からは田沼副委員長と奥田委員に出席をいただきました。

今回は、自薦・他薦を含め市全体で２５件の活動事例集の応募がありました。若葉区からは５件の応募がありました。編集会議で掲載は各区２件ということになり、互換性、先駆性、発展性、継続性の選定基準に照らし２件が掲載候補として決定されました。

（委 員） 今後は、１０月、１１月にかけて委員さんと取材活動を行い、１２月上旬に第２回目の編集会議を開催し、来年の２月に事例集の発行を予定しています。
有償ボランティアと無償ボランティアの扱いで、ある施設において差別待遇を受け非常に憤慨したことがあった。ボランティアを受け入れる側はボランティアが気持ちよく活動できるように配慮してもらいたい。

【「議題（２）その他 ・平成１９年度パイロット事業について」における質疑応答】

（事務局） パイロット事業の残額５０万円について、社協本部と市の間で協議した結果、ＮＰＯ法人と社協地区部会が連携した事業に対し申請を受け付けることにいたしました。１０月１２日が締め切りであることと、申請者は地区部会ということで９月２１日に若葉区内１２の地区部会会長にお集まりいただき協力の依頼を致しました。

（委 員） 申請できるのはＮＰＯ法人なのか、ＮＰＯ活動団体なのか。ＮＰＯ法人だとしたら区内にはほとんどないが、団体数を把握しているのか。

（事務局） 若葉区内のＮＰＯ法人は３７団体、うち保健、福祉、医療に関するものは２４団体と把握はしています。

（委 員） 福祉関係のＮＰＯ法人が２４あるとはいっても、多くはホームレス関係のＮＰＯであり、消去法でいくと可能性のあるＮＰＯ法人は２つくらいだと思う。限られた団体にしか申請できないことになり、事業をひろげようという意思が感じられない。ＮＰＯ法人に限定しなくとも良いのではないか。限定しなければ地区部会と連携できるＮＰＯは沢山あり、すばらしい事業ができると思う。非常に残念です。

（事務局） 確かに申請は限られますが、今回の募集は限度額１０万円で申請をいただいた場合５件の申請しか受けられませんので、法人と限定させていただきました。

（委 員） 分かりました。

（委員長） 他にご質問がなければ、本日の議題はこれにて終了いたします。

（事務局） 次回も本日のようなグループ討議形式で行いたいと思います。次回の日程が決まり次第ご連絡いたします。本日はありがとうございました。

以上、午後１２時１５分を以って全ての議事が終了し閉会した。